

世界の仲間たちと共に目指す、2035 ビジョン

藤谷佐斗子 (日本 YWCA 会長)

昨年 2019 年の晩秋に、日本中の老若男女が、にわかファンを含め熱くなったのが、ラグビーワールドカップです。その試合の中で、日本の選手のあるコメントが心に響きました。「我々はなにを目指すのか、わかっています。チームの全員が、目指すビジョンにむけてそれぞれの場で、4 年間をかけてビジョンの達成に向かって毎日努力をしてきましたから」というものです。

彼らは、「ONE TEAM」を合言葉に多様な国籍や環境の違いを乗り越え、日本の代表として、「ベスト 8 に入る」というビジョン＝目標を達成しました。

さらに、準決勝では、南アフリカと対戦し、力及ばず敗退しましたが、その時のコメントにこのようなものがあります。「世界一を目指すチームと、ベスト 8 を目指すチームとは、その準備の内容もレベルが違うから当然の結果です。我々は、これからは、ワールドカップ優勝をビジョン (= 目標) として準備をしていきます。」

私は、この一連のコメントから YWCA として、参考になる多くの示唆が含まれていると感じました。

日本 YWCA は、前総会期からの課題を引き継ぎながら、4 年間かけてビジョン・ミッションの見直しについて全国の YWCA へ協議提案しています。世界 YWCA の共通ビジョン (目標) 「2035 年には、一億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、全ての女性にインクルーシブで持続可能な YWCA 運動を先導します」を、全国の YWCA とともに同じ方向を目指して進むことが、日本の YWCA 組織の維持のために必要だということ、理解していただくためにです。

理解を得るための具体的な例として、個性を活かし、かつチームでゴールを目指すラグビーという競技はとても分かりやすいのではないのでしょうか。

YWCA の課題は何か

東京 YWCA の事業は、各拠点の特色を活かした社会福祉事業、青少年

活動、留学生の支援、体育事業や電話相談、平和と正義のためのアドボカシーなど、どれをとってもキリスト教基盤にたち、始められたものです。

これらの活動に共通する課題は、継続するための「人」と「資金」を維持する困難さです。活動を始める際には、熱い思いや動機が会員の胸にはあっても、その先の明確なゴールの指標を決めておらず、継続することに自らの力を使い果たし、後継者の獲得や育成への余力がなくなっているからではないでしょうか。

すべての事柄には始まり（スタート）があり、また終わり（ゴール）があります。人間の一生に通じるものかもしれません。

多くの会員が考える活動のゴールはおそらく「継続し続けること」と設定するのではないかと、私は推測します。しかし「継続し続ける」ゴールを可能にするには、自分が頑張るのではなく、後継者つまり若い世代が継続的に活動に関わり続ける仕組みがあり、その仕組みが健全に働き、その結果が出ているということが大切なポイントです。そのポイントにこそ、私たちのビジョンを絞ることがいま必要とされているのではないのでしょうか。

なぜ、今、ビジョン・ミッション見直しなのか

このポイントは、残念なことに全国の YWCA の活動のおおよそに、共通しておりますし、また YWCA 以外の NGO や NPO 団体の多くが、存続できず苦しむ共通の原因でもあります。この、課題を抱えながら、2020 年の 11 月の全国総会にむけて、私たちは、今総会期の総括と同時に次の総会期にむけてどのようなバトンを誰に渡すかを定める時期になりました。

今一度、YWCA の先輩たちが、目指していたビジョンは何かを振り返ってみましょう。

そして、世界の仲間たちと目指す、15 年後（2035 年）のビジョン（＝ゴール）を、自らの YWCA のビジョンと重ねることが可能かどうか、一緒に考えてみませんか。

会員一人ひとりが同じビジョンにむかって、それぞれの働きの中で同じベクトルを目指して進むことができさえすれば、組織の活性化は可能です。

社会構造の変革を幻で終わらせず、具体的に実現するため、ともにビジョンを目指してまいりましょう。